

古きを訪ね新しきを知る

# 温故知新コース

## コンセプトポイント



### 1 平木橋

昔から農業用水の確保に苦労してきた地域のため、この橋は1915年に神戸の淡河川と山田川から、平木池へと農業用水を引く疎水事業の一環として建造された。しかし、疎水事業の端に位置していた平木池が貯水池としての機能を発揮できなかったため、1940年代には平木橋も放置されるようになった。その後、2009年に東播磨南北道路建設のため現在の場所に移築された。

**チェックポイント** 水不足と闘った地域の歴史を象徴するシンボルとして2010年3月に加古川市有形文化財に指定されている。



### 2 太子岩

607年、聖徳太子は推古天皇から加古川下流の土地100町を貰い受けた。聖徳太子が、加古川からその100町の土地までの用水路を作る際、堰を設置する基準にした岩だと言われている。1989年に加古川大堰が完成するまで、この用水は1,000年以上にわたって加古川下流地域の田畑を潤し続けた。現在、太子岩の大半は土砂に埋まり、岩の一部しか見る事はできない。

**チェックポイント** 聖徳太子が農業の発展のために地形を調査し、堰を設置するのに適切な位置だと決めた岩。



### 3 長波止の跡

昔、加古川は氾濫することが多く、周辺の土地の人々に被害をもたらしていた。加古川の増水による堤防の決壊を防ぐため、流れを緩衝する施設として、江戸時代に川中へ約30メートルの石垣が築かれていた場所。現在はそこにあったことを示す案内板のみ設置されている。

**チェックポイント** 昔の人々が加古川の氾濫を止めようとした知恵がうかがえる。

一級河川加古川を抱えるこの街では、昔より水に関する様々な問題が起こってきました。川の氾濫や、平野であるがため田畑まで水が行き渡らない、という問題に対して人々は取り組んできました。現代では様々な技術が発達し、その恩恵に預かっていますが昔の人々の工夫からまた新しい何かを感じ取ることができるかもしれません。



**【凡例】**

- モデルコース(約16.4km)
- 1 ~ 3 コンセプトポイント
- A ~ F よりみちポイント

©That's & Trial 2010  
0 100m 200m 300m 400m 500m

